

# 視覚障害情報ネットワーク事業の新たな展開 - JARVI-ML Technical Digest -

尾形 真樹，小田 浩一\*

東京都盲人福祉協会，

東京女子大学現代文化学部コミュニケーション学科\*

## 1. はじめに

5年ほど前(1995年12月)から，視覚障害情報ネットワーク事業<sup>1)</sup>の一環として，視覚障害リハビリテーション・教育関係の情報交換を目的に，JARVI Mailing List (以下JARVI-ML)が運営されている<sup>2)</sup>。Mailing Listとは，メンバー制の電子メール配信システムで，あるアドレスに電子メールを書くと，メンバーとして登録された人全員にそのメールが配信されるサービスである。メンバーは，視覚障害者，リハビリ施設の職員，盲学校の教員，大学関係者，眼科関係者，眼鏡業者など，多岐に渡っている<sup>3)</sup>。現在は会員数900人弱，メールは一日に平均して15通ほど投稿されており，その数は2000年4月現在，13,000通に達しようとしている。

これまで交換されてきた情報のなかには，文献をいくら探してもなかなか見つけれない，周囲の人に聞いても知られていない，マスメディアからも入手しにくい情報も少なくない。

こうした豊富なメールの交換を，各話題ごとに一連のリストとして整理し，社会の人たちも幅広くJARVI-MLの情報資源を活用できるようにしたものが，JARVI-ML Technical Digest (以下JARVI-ML TD)である。

## 2. JARVI-ML TDとは

### 2-1 視覚障害情報ネットワーク事業で欠けていた情報

視覚障害情報ネットワーク事業では，Web上での情報公開，Mailing Listの運営，情報を利用するためのトレーニングサービスをこれまで提供してきた<sup>1)</sup>。

このうちWeb上の情報公開には，情報を公開してから次の更新が行われるまでに，一定の時間がかかる。それらはある意味，固定的なものである。だが，情報が固定されているために，自分がほしいと思った情報の入手が容易なのである。

一方，JARVI-MLのようなMailing Listの場合は，様々な話題についての情報交換がされている。つまり，そこで交わされる情報は流動的なもの，今まさに生きている情報であるといえる。そのため，自分が持っていない情報を常に受け取ることができるが，情報はそのときのもので終わってしまって固定されることがない。

視覚障害情報ネットワーク事業では，この2種類の情報の間を埋めるためのサービスが欠けていた。それはつまり，Mailing Listで交換されたある話題についてのメールの結末が確定した段階で，それを固定された情報として公開

し、リサイクルするということである。

## 2-2 情報公開に対する問題

JARVI-ML に投稿されたメールを、自動的に整理し、Web 上に公開することは可能である。しかし、それでは情報資源としては使えない情報までが、公開されてしまう。それを防ぐには、交換される情報の内容とその結末を正しく判断していく必要がある。それには人の手が欠かせない。つまりは、視覚障害に関して一定の知識のある者の介在と、その介在にかかるコストの問題が生じてくるのである。

## 2-3 情報のリサイクルの必要性

では、なぜ情報のリサイクルが必要となるのだろうか。

視覚障害者には、視覚障害者になって間もない人、何年か過ぎた人など、様々な段階の人がいる。この人たちが同じことに疑問を持ち、異なる時期にその疑問を JARVI-ML に投稿した場合、同じ情報交換がまた繰り返される。これは新たに JARVI-ML に参加したメンバーにもいえることである。

このような情報交換の手間を減らすために、JARVI-ML のメンバー以外の人や、将来の JARVI-ML の参加者へのサービスとして、Mailing List で交換された情報を整理して一般公開することが必要となった。

このような役割を担おうとする試みが、JARVI-ML TD なのである。

## 3. JARVI-ML TD 公開の経緯

JARVI-ML TD は、杏林アイセン

ターと東京女子大学に交付された厚生省科学研究費補助金から援助を受け、1999年7月から11月までのメールの交換を整理しまとめて、12月に東京女子大学の情報処理センターのサーバで、JARVI-ML の会員だけを対象に、試験的に公開を開始した。それ以来、2000年1月、3月とおよそ2ヶ月間の間隔で、合計3度の更新を行った。また、2000年1月の更新のときには、JARVI-ML の会員からの承認と理解が得られたため、以下の URL にて一般に公開することになった。

<http://www.twcu.ac.jp/~k-oda/VIRN/JARVI-MLTD/index.html>

## 3-1 JARVI-MLTD の構成

図1に示したのは、JARVI-ML TD のトップページの Index である。2000年4月現在、項目は13あり、内容は以下の通りである。

- 1.Windows 関連 Q&A
- 2.Screen Reader 関連 Q&A
- 3.ZoomText Xtra 関連 Q&A
- 4.CDR 関連 Q&A
- 5.DOS 関連 Q&A
- 6.電子書籍関連 Q&A
- 7.ゲーム関連 Q&A
- 8.キーボード練習用ソフト関連 Q&A
- 9.点字関連 Q&A
- 10.Orientation and Mobility 関連 Q&A
- 11.ADL, TDL, 日常生活情報関連 Q&A
- 12.視覚障害者雇用問題関連 Q&A
- 13.視覚障害者の建築物利用関連 Q&A

JARVI-MLTD で公開されている情報には、個人情報は一切含まれていな



図 1 Index of JARVI-ML TD

い。コンピュータに関する技術的な情報の他に、歩行、日常生活、雇用問題、建築物利用の問題などに関する情報が公開されている。これらの情報は、多くの人の関心を引き、かつ、技術的解決が可能なものばかりである。

話題について交換されたメールのやりとりには、それぞれ主題がつけられている。Index にあげられた各関連項目ごとに主題があるわけだが、それはまた別ページをつくり、そこに示してある。そして、まとめられた総主題数は 79 個になる。1999 年 7 月から 2000 年 3 月の更新日までに交換されたメール数は、およそ 4000 通。このうち、主題

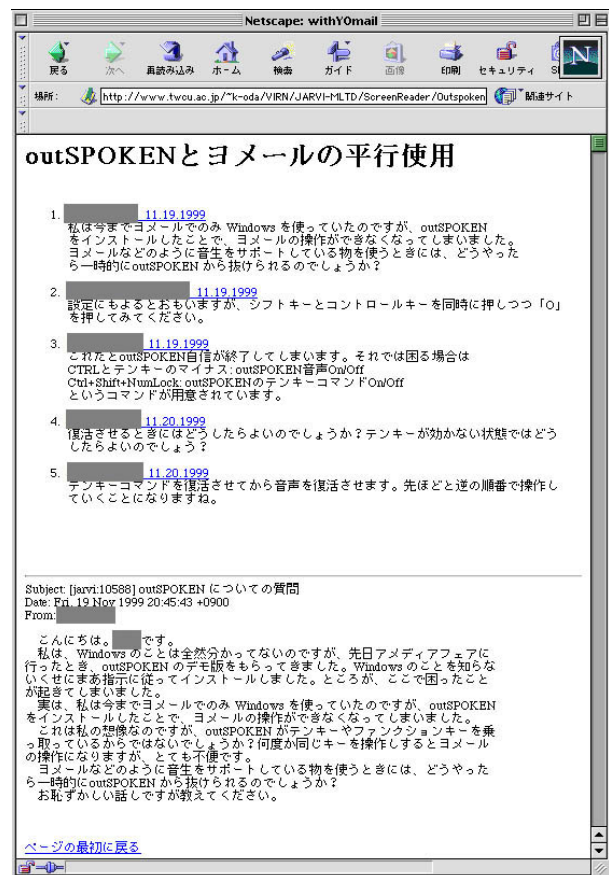


図 2 主題別ページの例

を構成するメールとして採用したメール数は、269 通である。

メールを主題別に整理し、一連のやりとりをリストとして示したページ(図 2)には、まず投稿した人の名前、所属、日付がページの最初に示されている。また、投稿されたメールの短い要約も一緒に示してあり、メールの本文を読まなくとも、要約の部分だけである程度の内容が分かるように構成されている。それらの下に、メーリングリストで交換されるメールの本文そのものがリンクされて示されている。そして、メールの詳細が読みたい場合には、投稿した人の名前の部分をクリックすれば、その人が投稿したメールが読めるようになっている。

### 3-2 利用率

4 月の大学の Web Server における

ディレクトリへのアクセス状況<sup>4)</sup>から推測すると,1ヶ月に約210件ほどのアクセスがある。4月には更新をしていないので,更新時に比べると,低いアクセス頻度になっているものと考えられる。

#### 4. 今後の展開

今現在,視覚障害情報ネットワーク事業の一項目である,視覚障害者用アクセス技術製品データベース <http://www.twcu.ac.jp/~k-oda/AccessBlind/> のデータベースの更新が行われているところである。

今後は,この視覚障害者用アクセス技術製品データベースの各製品情報とJARVI-ML TDの関係部分を相互にリンクさせていくことを考えている。

視覚障害者を支援するいろいろな製品が多く開発,販売されてきている。これらの製品のなかから何かを購入したあとで,結局は自分には使えなかった,もう少し誰かのアドバイスを聞けば良かったと後悔した経験のある方もいることであろう。

使い心地はどうなのか,どんな問題やクセがその製品にはあるのか,またそれはどのように解決できるのかといったように,その製品がいったいどのような評判を製品のユーザーから得ているのかを知ることは大切なことである。したがって,こうしたユーザーの声と製品のデータベースをリンクさせることで,製品の購入以前に,自分のニーズに合った製品を検討していけるようになる。製品のカタログを取り寄せ,それを読み,自分一人で,もしくは身近なユーザーのアドバイスだけで購入を決定するよりは,全国規模での

ずっと確かな情報が得られようになる。

また,ユーザーの声が製品のメーカーに届きやすいという利点もある。いったいユーザーが製品に何を求めているのかを明確にメーカーに伝えることは,これからの製品開発を担うという意味で重要なことである。

#### 謝辞

JARVI-ML TDは,杏林アイセンターと東京女子大学に交付された厚生省科学研究費補助金から援助を受け,東京女子大学の情報処理センターのサーバで公開している。この場を借りて謝意を述べたい。

#### 参考文献

- 1) 小田浩一,大場純一,小田島明,加藤晴喜,小林巖,中野泰志,中村透;視覚障害者と関係者を対象とした情報ネットワーク事業,第6回視覚障害リハビリテーション研究発表大会論文集,p.p.38-41,視覚障害リハビリテーション協会,(1997)
- 2) 小田浩一;視覚障害に起因する情報障害の克服-視覚障害メーリングリストの5年,第9回視覚障害リハビリテーション研究発表大会論文集,視覚障害リハビリテーション協会,(2000)
- 3) 小田浩一;インターネットによる視覚障害リハビリ・教育サービスの向上,第5回視覚障害リハビリテーション研究発表大会論文集,p.p.202-205,視覚障害リハビリテーション協会,(1996)
- 4) 東京女子大学情報処理センター,ウェブサーバの統計,<http://www-local.twcu.ac.jp/cis/analog.html>,東京女子大学(2000)